

第6回国立公園満喫プロジェクト有識者会議

議事次第

日時：平成29年8月7日（月）

10:00～12:00

場所：航空会館7階 702+703 会議室

1. 開会

2. 議事

（1）国立公園満喫プロジェクトの実施について

（2）その他

3. 閉会

配付資料一覧

資料 1 国立公園満喫プロジェクトの選定 8 公園を中心とした取組
状況と今後の予定

資料 2 国立公園満喫プロジェクトを進めていく上での考え方

資料 3－1 今後の進め方に関する前回会議での主なご意見と
対応方針について

資料 3－2 国立公園満喫プロジェクトの今後の進め方

資料 3－3 国立公園と温泉地の相互連携

参考資料 1 国立公園別訪日外国人利用者数推計値等
(第 4 回有識者会議資料)

参考資料 2 国立公園満喫プロジェクト有識者会議 委員名簿

参考資料 3 第 2 回「山の日」記念全国大会

国立公園満喫プロジェクトの選定8公園 を中心とした取組状況と今後の予定

- (1) 国立公園の管理体制強化
- (2) 質に関する指標開発
- (3) 民間事業者等との連携
- (4) 公共施設の民間開放
- (5) 上質なホテルの誘致
- (6) 野営場の改革
- (7) 引き算の景観改善
- (8) 利用料等を保全に還元する仕組み
- (9) プロモーション

(1) 国立公園の管理体制強化①

の5カ所の国立公園

- 「管理事務所」を設置し、所長以下5名の職員を配置

の3カ所の国立公園

- 保護管理と利用の企画官、各1名を増員

※8公園にアクティブ・レンジャーを合計13名増員

阿寒国立公園

(釧路自然環境事務所管内)

大山隠岐国立公園

(中国四国地方環境事務所管内)

阿蘇くじゅう国立公園

(九州地方環境事務所管内)

日光国立公園

(関東地方環境事務所管内)

霧島錦江湾国立公園

(九州地方環境事務所管内)

十和田八幡平国立公園

(東北地方環境事務所管内)

伊勢志摩国立公園

(中部地方環境事務所管内)

慶良間諸島国立公園

(那覇自然環境事務所管内)



1: 5,000,000
0 50 100 200km

(1) 国立公園の管理体制強化②

① 管理事務所設置による効果

- ・ 環境省の体制強化に連動した、地元自治体、観光協会における体制強化
(釧路市阿寒観光振興課増員、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構への大手広告代理店・旅行会社からの人材派遣、島根県課長級職員増員、島根県大田市・出雲市の増員、熊本県観光産業創成班の設置、宮崎県自然公園室の設置等)
- ・ メディア露出機会の増加 (事務所開設の会見に14社の取材、地元テレビ・新聞への所長出演等)
- ・ 増員による、様々なイベント・会議 (ONSENガストロノミー前夜祭等) への出席機会の増加、新たな展開 (地元飲食店からの寄付による草原維持費用補填の仕組みを構築 ((8) ②参照) 等)



草原維持作業

② 所長着任による効果

- ・ 知事、県部長、市町村長、地元有力企業代表等との直接の調整機会の増加
→ 米子空港・フェリーターミナルなど 周辺施設での国立公園の紹介開始

③ 民間経験者の国立公園利用企画官着任による効果

- ・ 旅行業界、海外長期滞在経験者、雑誌メディア、金融機関、グリーンツーリズム、地域づくり、観光経験者等 多様な民間経験を活かし、高速道路SAでの公園PR、VC英語HPの充実、アウトドア雑誌PEAKSへの寄稿、DMCのファミ会議新規参加、ロングトレイルの具体的な検討開始等を実施

(2) 質に関する指標開発①

- 利用促進策の成果を把握するための指標として、国立公園を訪れる訪日外国人利用者の「人数」以外に「**利用の質**」に係る指標を開発する。
- 過去データとの比較が可能な「①既存統計による推計」と新規の「②モバイルアンケート」による調査結果を比較分析し、**継続取得が可能な指標について検討**を行う。

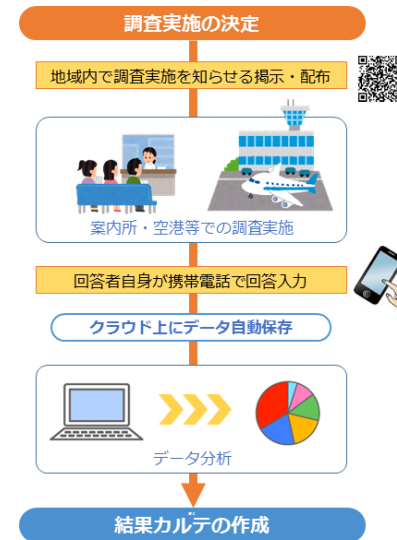
①既存の統計データを活用した指標値の推計

	利用者数 (人)	観光消費単価 (円/人)	平均宿泊数 (日/人)
使用 data	訪日外国人消費動向調査 (観光庁)		宿泊旅行統計調査 (観光庁)
推計 方法	① 訪問地ごとの訪問率 ② 各公園内訪問地訪問率を抽出・推計 ③ 訪問率と訪日外国人旅行者数を用いて推計 ④ 各公園利用者数	① 訪問地ごとの観光消費単価 ② 公園内訪問地を抽出・推計 ③ 国立公園全体消費単価	① 全国施設の泊数 ② 各公園内施設を抽出・推計 ②' 各公園を含む市町村内施設を抽出・推計 ③ 各公園宿泊日数
対象 data	H29年data	H28年data	H28年data
推計 時期	H30年3月 (予定)	H29年10月 (予定)	H29年8月 (予定)

②現地モバイルアンケートによる指標値の把握

- 現地で観光客自身がスマホ等で回答
- 公園訪問の内容・意識を全国統一で把握

(英語・繁体字・簡体字・韓国語・日本語)



The screenshot shows the mobile survey app interface. It displays two questions: 'Q3. Where do you live in Japan?' with a dropdown menu showing 'Tokyo', and 'Q5. What is your travel group type?' with radio button options: 'With family', 'With spouse' (selected), 'With friend(s)', 'With boyfriend/girlfriend', 'In a group of colleagues, local community members or hobby club', 'Alone', and 'Others'.

システム概要

回答画面例

(2) 質に関する指標開発②－既存統計による推計

■ 訪日外国人の国立公園利用に関する指標値の推計結果【暫定値】

No	公園名	外国人推計実利用者数 (万人)		【参考】 日本人を含む 利用者数 (万人)	外国人 観光消費単価 (円／人)	外国人平均宿泊数 (泊／人)		【参考】 日本人を含む 平均宿泊数 (泊／人)	外国人延べ宿泊者数 (万人泊)			【参考】 日本人を含む 延べ宿泊者数 (万人泊)		
			標準誤差率							外国人比率				
1	阿寒	5.8		10.2%	360	-	1.29		1.28	12.4		6.8%		183
2	十和田八幡平	2.2		16.6%	474		1.31		1.25	13.0		3.6%		363
3	日光	24.1		5.0%	1,609		1.32		1.24	13.1		1.7%		787
4	伊勢志摩	6.1		9.9%	887		1.14		1.14	6.7		1.6%		417
5	大山隠岐	1.4		20.8%	1,341		1.24		1.20	7.1		1.8%		396
6	阿蘇くじゅう	67.5		2.9%	2,050		1.14		1.14	98.9		14.5%		682
7	霧島錦江湾	7.9		8.7%	1,171		1.24		1.17	39.1		6.8%		576
8	慶良間諸島	-		-	20		2.09		1.64	1.1		6.3%		17
34公園全体		545.7		0.9%	35,218	推計中	-							
対象data		H28			H26	H28	H27							

外国人推計実利用者数

※外国人推計実利用者数：当該国立公園を訪れた実際の利用者数の人数。1人の利用者が同一公園内の複数地点を利用しても1人と数える。

※慶良間諸島は、「訪日外国人消費動向調査」の訪問地選択肢コードに該当する地点が無かったため、実利用者数は推計対象外。

※参考として掲載した日本人を含む公園利用者数の出典：環境省「自然公園等利用者数調」

外国人平均宿泊数及び延べ宿泊者数

※平均宿泊数及び延べ宿泊者数の集計対象は、国立公園を含む市町村の宿泊施設とした場合の値。

※外国人平均宿泊数＝外国人延べ宿泊者数÷外国人実宿泊者数。

(2) 質に関する指標開発③－現地モバイルアンケート

■ 全国統一ベース設問

・ 既存統計による推計値と比較検証する項目

公園（および周辺域）の「泊数」「消費額」

・ 公園訪問の内容

国立公園としてのエリア認知 / 公園内訪問スポット

公園内実施活動 / 公園内消費額（費目別） / 滞在中情報源

公園訪問のきっかけとなった情報源 / 公園訪問回数

公園内宿泊地・日数 / 公園外の宿泊地・日数

・ 訪問に関する意識

満足度（項目別）

再来訪意向

満足（自由記述）

改善の提案（自由記述）

・ 属性

性別・年代 / 国籍・居住国

同行者 / 旅行会社利用有無

訪日回数 / 入出国空港

職業 / 世帯年収

■ ローカル追加設問

各公園・地域と協議の上で、必要な設問を地域ごとに追加する

■ 調査スケジュール

調査設計・準備

地域調整・試行

システム稼働（適宜修正・改善）

分析及び継続に向けた調整

5～6月

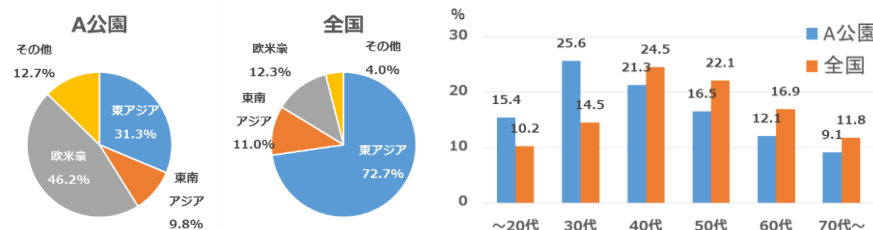
7～8月

8～2月

2～3月

■ データ活用イメージ（例）

① 自地域の公園訪問者像を把握する



② 値向上のKey要因を確認する



③ 改善提案コメントから対応策を検討する

改善提案コメント（例）

- ベジタリアンフードのメニューがなかったので作ってほしい。
- 英語での案内がなく、買い物をどこで出来るか分からなかったのので、英語MAPを用意してほしい。

整理

改善事項（例）

- 県産の野菜を使ったベジタリアン向けのメニューを共同開発する。
- 外国語対応の地図を作成し、分かりやすい場所に掲示・設置する。

(3) 民間事業者等との連携①

①新規バスの運行等

- ・日光国立公園内の関係観光協会等が連携し、日光国立公園内に散在する観光地、日光・鬼怒川・湯西川・塩原・那須を結ぶバス（日光・那須満喫ライナー）の試験運行を、H29年5月13日～6月4日の期間の土日（計8日間）実施。H29年10, 11月の土日祝日においても秋季運行を検討中
- ・大山隠岐国立公園内の夕日の絶景地域をPRするため、夕日の時間帯に日御碕灯台や日御碕神社を巡るガイド付きバス（出雲日御碕夕日観賞バス）を出雲市がH29.7より新たに運行開始



(3) 民間事業者等との連携②

- ・ NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構が実施主体となり、**釧路空港と阿寒湖温泉を結ぶバス「阿寒エアポートライナー」**をH29年7月1日～H30年3月31日まで実証運行（1日2往復）
- ・ プライムロードひがし北海道推進協議会が行う広域観光周遊ルート形成促進事業の実証事業として、**道央圏とひがし北海道を結ぶ「ひがし北海道周遊バス」**を昨年度に引き続き運行（秋季及び冬季）。運行ルートはノースルートとサウスルートがあり、**サウスルートは、札幌～新千歳空港～帯広、帯広～十勝川～オンネトー～阿寒湖～摩周湖～川湯温泉～ウトロ温泉を運行。**



(3) 民間事業者等との連携③

②CMによる利用者の増加

- ・ 6/16より放映開始されたサントリー「奥大山の天然水」のCM（宇多田ヒカル出演）により、大山隠岐国立公園に隣接する「天然水奥大山ブナの森工場」の6月の来場者が前年の3倍に増加し、公園内にも波及



③オフィシャルパートナーとの連携

- ・ 国立公園の魅力を世界に発信する国立公園オフィシャルパートナーシップ締結企業31社による取組を継続して実施中



日本旅行では、国立公園を冠した旅行商品を造成・販売中。
2017上期(6～9月)は伊勢志摩国立公園・霧島錦江湾国立公園。
JR車内誌や高速道路(NEXCO)フリーペーパー等での国立公園特集の掲載。

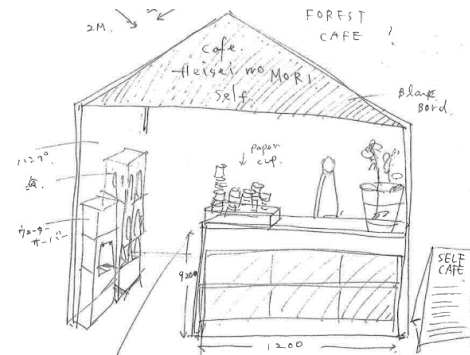
- ・ さらに、新規の締結について調整中。



(4) 公共施設の民間開放

① 那須平成の森フィールドセンターでのカフェ試験出店

- ・地元在住デザイナーの助言を受け、イス・テーブル等を設置し、5/2より飲食スペースとして開放
- ・H29.6.25に、出店形式での飲食提供を行うカフェスペースとして試験的に開放。8月には観光協会会報にて地元カフェ等による試験出店を募集。



カフェスペース



カフェスペース

② 天空カフェの設置

- ・伊勢志摩国立公園において、英虞湾の景色が一望できる横山展望台に、民間のカフェを導入
- ・H29年度中の施工完了を目指し、設計が完了し、H29.9より着工予定
- ・公募により民間事業者を選定予定



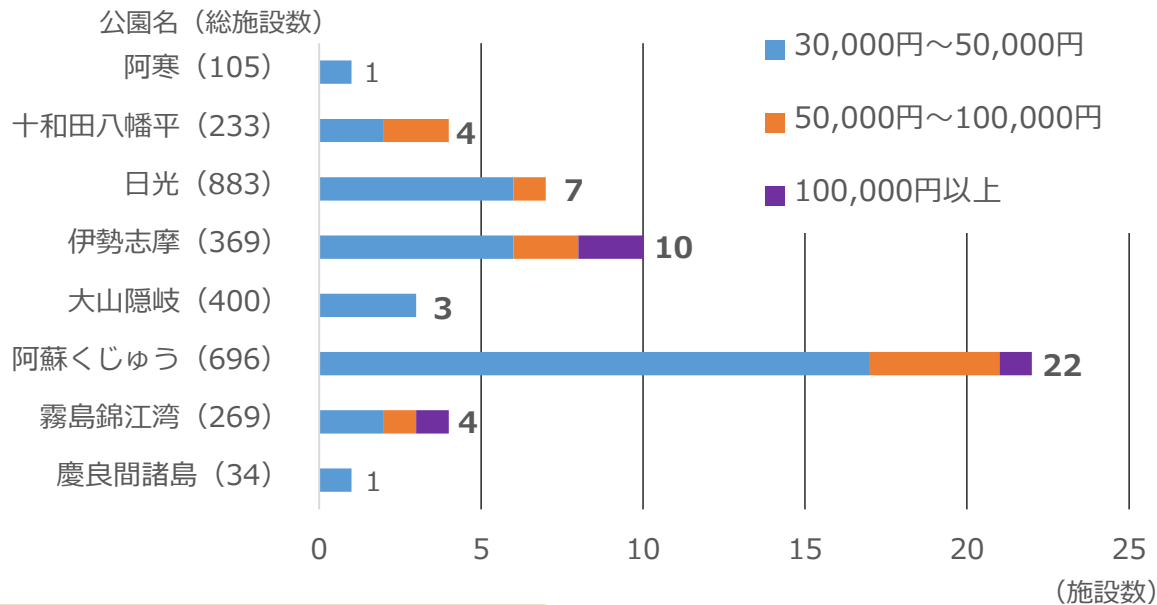
展望台・休憩所整備イメージ(全景)

(5) 上質なホテルの誘致

① 国立公園内及び周辺の宿泊施設現状調査

- ・ 8 公園内及び周辺の宿泊施設（公園内1,095施設、周辺1,894施設）について、客室数、宿泊単価を調査
- ・ 宿泊単価 **5 万円以上** の施設は 8 公園で **14 施設**
- ・ 宿泊単価 **1 万円以下** の施設が各公園の **6 割～9 割** 弱を占める

＜国立公園内及び周辺の高単価宿泊施設数＞



② 上質な宿泊施設に関する取組状況

- ・ 8 公園のうち 3 カ所程度において、国有地を中心に自然環境に配慮した上質な宿泊施設を誘致するための候補地について、今年度、専門家同行による調査を実施
- ・ その他の国立公園についても、自治体、民間事業者を中心に検討が進んでいる（日光国立公園ではリッツカールトンが進出予定）

(6) 野営場の改革

① 直轄野営場における民間事業者との連携

- ・ 8公園のうち3カ所程度の直轄野営場を対象として、**民間事業者等と連携したグランピングなどの上質なサービス提供について具体的な検討調査を実施予定。**



② オンネトーにおけるグランピングの検討

- ・ オンネトー（阿寒国立公園）のキャンプ場（林野庁所有、足寄町指定管理）において、**足寄町によりスノーピークとの連携も視野にグランピング導入の手法を検討中。**



休暇村裏磐梯で最新キャンププラン提供開始

- ・ 磐梯朝日国立公園（8公園以外）で休暇村が管理する直轄野営場において、国内最大級キャンプ専門インターネットサイト「**CAMP HACK**」と連携し、**最新のキャンプ用具のレンタル、食材の提供をするプランを提供開始**



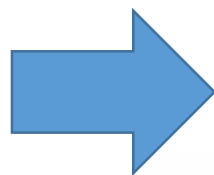
(7) 引き算の景観改善

大山寺地区における景観改善

【大山隠岐国立公園】

- ・大山寺地区において、地元自治体が内閣府の交付金を活用し、廃屋を撤去済。

撤去跡地にカフェや物販機能を有する「山の駅（仮称）」を整備予定。

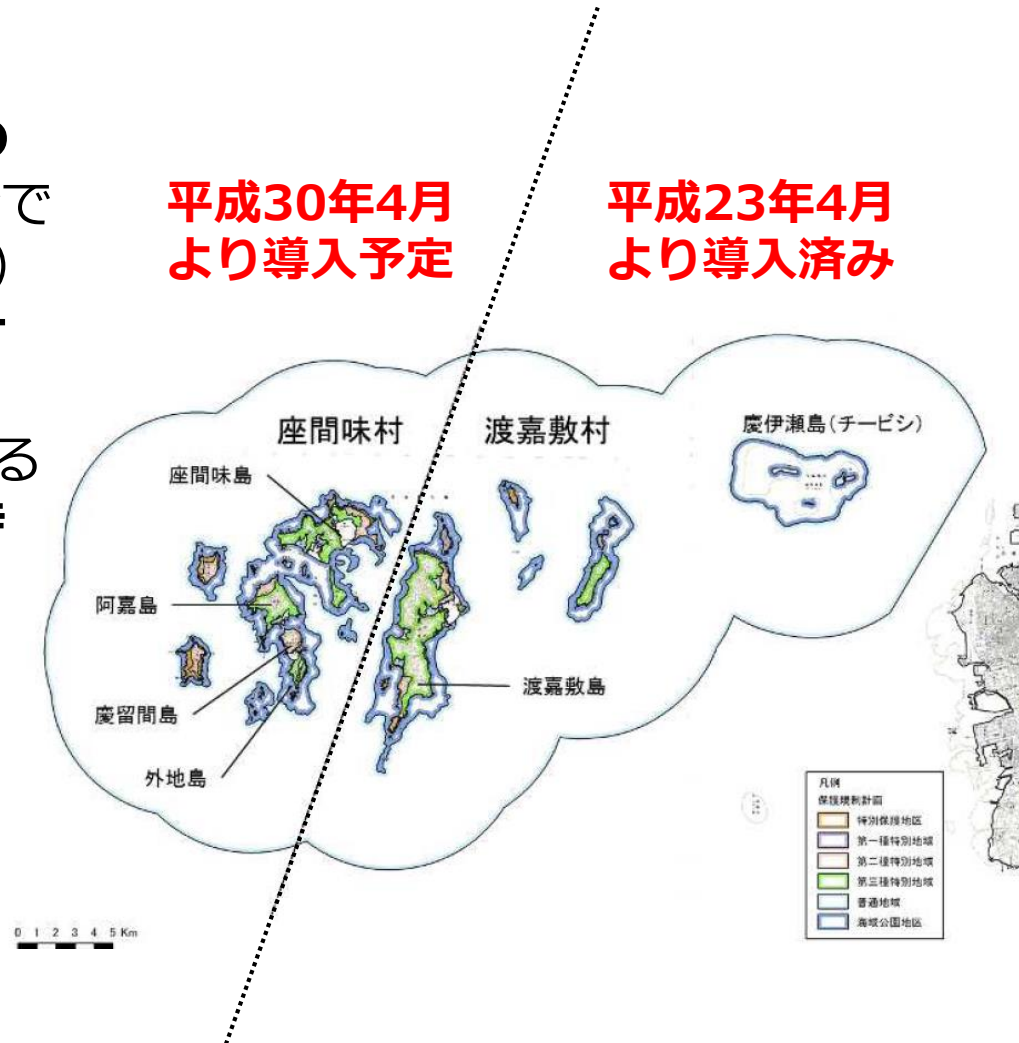


山の駅（仮称）外観
（今後変更可能性有）

(8) 利用料等を保全に還元する仕組み

① 美ら島税による自然環境・景観保全

- ・ 座間味村（慶良間諸島国立公園）にて、**来年度から「美ら島税」の導入予定**（平成29年3月に村議会で条例案可決、同年7月総務省同意）
- ・ **船舶の運賃に一人100円を上乗せ**して徴収
- ・ **年間約1千万円の税収**が見込まれる
- ・ **環境美化・保全、観光施設の維持管理**に活用



(8) 利用料等を保全に還元する仕組み

②利用者の協力による自然環境・景観保全

- ・ 大山隠岐国立公園の草原景観維持のため伐採した木材を薪にして販売
- ・ 地元飲食店舗「さんべバーガー」の協力で、バーガー料金の一部を寄付
→持続可能な三瓶山の草原景観保全の活動へ

取組への理解・協力

バーガーを
買う

一個につき
1円を寄付

薪を買う

薪売上
の一部を寄付

利用者が気軽に環境
保全に参画

三瓶山の草原景観維持作業
(自然生長した樹木の伐採)



伐採した木を薪にして販売



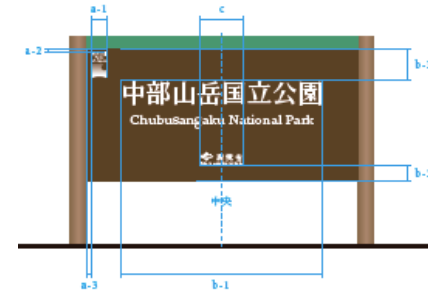
補助金

(9) プロモーション・情報発信①

①国立公園統一マークの発表

- ・国立公園統一マーク、ブランドスローガン「その自然には、物語がある。」を発表
- ・各国立公園についても統一マークと一体的なデザインでの作成を今後進める予定

National
Parks
of Japan



②コンテンツの磨き上げ・受け入れ態勢強化（ファムトリップ）

- ・地元自治体や観光協会、事業者等からなるWGを設置。
- ・ターゲットやコンセプトを明確にしながら、各公園ならではのコンテンツ同士をつなぐストーリーや主要交通拠点からのルート等を検討中。

例) 日光国立公園の進捗状況：

○ターゲット：欧米豪の個人旅行者（富裕層を意識）

○コンセプト：NIKKO is NIPPON 自然・歴史・文化 美しい「日本」を体験できる 東京圏のプレミアムリゾート
→・御用邸、大使館別荘を中心とした「プレミアムリゾート」の追体験
・湖、溪谷等「水」のアクティビティ
・世界遺産エリアを中心とした「歴史文化体験」
・日帰り→宿泊→連泊を目指したコンテンツ開発 等

7/24～26 プレファム（現地検討会）の実施：

- ・個々のコンテンツ、ストーリーの磨き上げ
 - ・意見交換の時間を設け、徹底したヒアリング
- 招聘者：マイクハリス氏、ジャパントラベル記者等

WG等で、反省・磨き上げ

8～9月頃（予定）

留学生等によるモニターツアーで生の声をヒアリング
※JTB（オフィシャルパートナー）のCSR

9月中旬（予定）

ファムトリップ
現地評価会、
招聘者との今後の関係性の構築

12月～1月頃（予定）

冬季モニターツアー
栃木県が中心となり、留学生等を活用した冬季アクティビティの磨き上げ・PRを実施。

（その他公園の予定）阿寒9月、1月ファム予定、伊勢志摩11月ファム予定、阿蘇くじゅう8月プレファム予定16

(9) プロモーション・情報発信②

③ ビジターセンター情報発信強化プロジェクト

プロジェクトの目的

国立公園満喫プロジェクトと連動して、国立公園の利用拠点であるビジターセンター(VC)において、**情報発信の強化**を図ることで、利用者が国立公園をより楽しめるようにするとともに、インバウンド増加につなげることを目指す

* 対象は国立公園及び周辺にある環境省直轄の65箇所のビジターセンター



阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンター

情報発信強化の取組の方向性

① 国立公園やビジターセンターに関する情報が事前によりわかりやすく！

- ・VCの**アピールポイント**と**できること**をとりまとめた「**ビジターセンターBook**」の作成とその周知徹底
- ・環境省HP「**国立公園へ出かけよう**」、**公式SNS**等の充実



ビジターセンターBook



公式Instagram

② ビジターセンターに寄って国立公園をより楽しく！

- ・地域の特徴や公園を楽しむ**展示等の充実**
- ・**アクティビティ・プログラム**の充実
- ・地域の**ワンストップサービス**の実施の検討



③ ビジターセンターがより便利に！

- ・環境省の整備可能な**全直轄VCにおけるWi-Fi整備**
- ・**多言語等のユニバーサルデザイン**対応の推進
- ・**VC機能の拡充**(カフェ・ツアーデスク等の設置の検討)
- ・**VCの体制の強化**(人員の充実・研修等)
- ・**自然公園等施設技術指針への反映**

伊勢志摩国立公園
横山(カフェ導入施設のイメージ)



国立公園満喫プロジェクトを進める上での考え方 ー有識者会議の議論を踏まえてー

◎日本の国立公園の特徴

- ・国立公園が我が国の自然保護の根幹を支える制度として果たしてきた役割は大きく、今後も依然として大きな役割を果たしていく
- ・日本の国立公園は、区域の中に人が住み、自然と長い時間をかけて付き合いきた地域の暮らし、そこで育まれた文化や歴史が根付いており、こうした自然と人間の共生の姿こそが世界に誇る日本のナショナルパークであると言えるのではないか
- ・国立公園は制度の創設経緯からインバウンドを意識したものであり、こうした歴史的経緯を踏まえて今の時代にあった新たな国立公園の姿を考えることが必要

◎基本的な視点

■最大の魅力は自然そのもの

- ・国立公園はそこにある豊かな自然環境が適切に保全されていることこそが魅力であり、地域の観光産業をはじめとする様々な生業を支える資源である
- ・このため、新たに大きな開発を行うのではなく、マイナス要因を取り除くなど、自然そのものの魅力を生かすことにより利用の推進を図ることが重要

■暮らしとともにある国立公園

- ・日本の国立公園は観光地としての価値だけでなく、人が住む場所としての価値がある
- ・人が住むことにより、自然とのつきあいの中で積み上げられてきた文化や歴史がその地域の魅力となる
- ・地域の観光業者やそれを支える様々な地域の産業が経済的に持続可能となるモデルをつくりあげることが必要

■体積で考える

- ・観光客数だけでなく一人当たりの消費額を掛け合わせた体積（観光消費額全体）で考えることが必要
- ・消費額を引き上げていくためには、いかに滞在させるかが重要であり、そうした観点でアクティビティを充実させ、自然をお金に換えていく

■多様な階層に対応した施設・サービス

- ・多様な階層のニーズに対応するバラエティのある施設やサービスを提供することが重要
- ・高品質高単価のサービスがあることで、カスケード効果により地域全体の消費額

を引き上げることにつながる

- ・利用者を制限しながら高付加価値の特別な体験を提供するエリアと、マス利用を適切にコントロールすることで自然環境及びサービスの質を維持していくエリアのゾーニングが必要

■国内需要も大事

- ・人口減少が進む中、国内旅行消費額は今後大きくは伸びないが、シェアとしては圧倒的に多い
- ・インバウンド対策を意識することにより、外国人旅行者の新たな視点による魅力の発見、ユニバーサルデザインの浸透など、観光地全体のサービス向上につながる効果が期待

■広域的な視点で考える

- ・利用者の目線から国立公園を核として広域的な観光圏を形成していくという視点が重要
- ・国立公園へのアクセスルートはまっすぐ最短距離ではなく、移動中も自然と共生する暮らしが垣間見える多様なルート設定が考えられる
- ・温泉や食などと一体となったルートやメニューを充実させ、地域経済を活性化させることが重要

◎具体的な課題

■利用者目線の情報発信とホスピタリティの向上

- ・専門的で難解なガイダンスを排し、利用者が楽しみながら教養を高めることができるような内容とするよう検討
- ・情報発信の技術的な手法（IT 機器の活用等）に頼るのではなく、情報発信の内容の質を高めることの方が重要
- ・多言語表記の際は、日本語の翻訳ではなくネイティブのライターが書き下ろすなど、その言語を母国語とする外国人が読んで違和感のない内容とすることが必要
- ・展望台やビジターセンターなど美しい景色を眺められる場所でゆっくりと休憩できるよう、カフェやベンチなどを整備することが必要
- ・適切な案内表示やアクティビティの情報発信など、利用者が国立公園に来たと実感できるような質を維持していく

■民間活力による利用者層に対応した宿泊施設、キャンプ場の整備

- ・高い交通費と安い宿泊施設のミスマッチが生じている
- ・民間活力を生かして、自然環境に配慮した小規模で上質な宿泊施設の誘致を検討

- ・過去に整備されたキャンプ場は、主に集団生活の体験を意識した作りとなっており、現在の個人旅行客向けのニーズに対応できていない
- ・民間のノウハウを生かして現在のニーズにあったキャンプ場へのリニューアルを進めることが必要
- ・宿泊施設と連携したアクティビティの提供、情報発信も重要

■引き算の景観改善

- ・「衆」から「個」へと変化する観光客のニーズに対応できずに取り残された廃屋などのマイナス要因を取り除くことでプラスに転じていく引き算の景観改善を進める
- ・統一性を欠き乱立する案内看板等については、統一したデザインコードにより整理統合を図る

■利用料等を保全に還元する仕組み

- ・適切な利用料等を徴収することで、自然環境への負荷を抑制するとともに、保全やサービス向上のために必要な資金を確保する仕組みをつくる

第5回有識者会議(5/12)での主なご意見

- 1000万人目標達成のため、公園全域ではなく一部地域がやる気があるところも取り組んでもらうべき
- マーケティングを無視した地元のアイデアを採択するようでは成功確率は低くなるので、チェックが必要
- 富士箱根伊豆、支笏洞爺、中部山岳の3つは特に訪日外国人利用者数が多く、選定8公園に準じた取組をすべき
- 多言語化対応程度のことではすべての公園で進めればよいが、選択と集中により1つでもよいので世界に誇れる日本の国立公園をまずは作るべき
- 優れたものをしっかり育てていくという選択と集中をしつつ展開していくべき
- 海外の人はヨセミテなどにも来た上で日本の国立公園にも来る。そうした人にがっかりされないような整備が必要



- 選定8公園以外においては、目標達成に向けて効果的かつ積極的な提案のある地域について、海外マーケットに詳しい事業者などのアドバイスも得ながら、コンパクトで効果的な取組を展開事業として支援
- 選定8公園、展開事業ともに、利用者数の増加を主に目指す地域、質の向上を主に目指す地域等の地域ごとの戦略を立てながら、メリハリをつけて事業を実施（選定8公園の中でも優れた取組を優先的に推進）
- 既に利用者数の多い3つの国立公園については、国立公園としての質を確保する取組を、関係者と連携しつつ推進

国立公園満喫プロジェクトの 今後の進め方

資料3-2

現状

■ 先進的、集中的に 取組を行う公園

【8公園】

- ・公園単位で地域協議会設置
- ・総合的な施策を展開

■ 選定要望をした その他の公園

【8公園】

- ・公園内の限定した地域において施策を実施予定

■ 上記以外の公園

【18公園】

- ・基盤整備や海外発信等を
中心に推進

今後

■ 先進的、集中的に 取組を行う公園

【8公園】

- ・地域協議会を継続し、ステップアッププログラムに基づく総合的な施策を展開

■ 個別のエリア、テーマ等で集 中の取組を行う公園

- ・公園内の限定した地域、または、特定のテーマを持った事業等、熱心な自治体等と連携したコンパクトで効果の高いソフト事業を中心に実施

■ 上記以外の公園

- ・国立公園全体の共通の取組として、基盤整備（WiFi整備、多言語対応、ユニバーサルデザイン化等）や海外発信等を
中心に推進



成果を
反映

個別のエリア、テーマ等で集中的に取り組を行う 公園について

満喫プロジェクト推進のポイント

- 日本の国立公園の魅力は豊かな自然＋人々の暮らしや文化
- これらに関係する人々の協働が重要であり、地域協議会による地域の一体感・盛り上がりが推進の原動力となっている



第4回有識者会議(2/9)での主なご意見

- 1000万人の目標達成のためには、選定 8 公園だけでなく、すでにたくさんお客さんに来ていただいているところを改善しないと目標達成は厳しい
- 熱心な都道府県、市町村と連携し、個別のエリア、ビューポイントに限定した取組も重要
- 公園外も含めた広域的なプランニングが必要
- 適切な多言語化等、外国人の視点に立った基盤整備が必要



満喫プロジェクトによる効果的な取組

先行する 8 公園での取組を踏まえ、目標達成に向けた即効性があり効果的と考えられる取組は以下のとおり

- ・誘客のターゲットを明確にし、交通事業者や海外の旅行会社等と連携した戦略的なプロモーションの実施
ex. 既存の主要観光ルートから一歩足を伸ばしてもらうための誘客戦略等
- ・外国人目線での魅力的な体験プログラム及びツアーの開発
ex. 地元で活動している外国人等による里山文化体験開発等
- ・外国人目線に立った二次交通/情報発信の改革
- ・限定エリアを対象とした景観デザインの統ルール策定



選定 8 公園の取組を推進しつつ、その成果を活かし、即効性のあるソフト事業を中心とした自治体や民間事業者等との連携プロジェクトを他の公園でも実施

※ハード整備については、ソフト事業に深く関連するものに限定して、予算の範囲内で一部実施

個別のエリア、テーマ等で集中的に取り組を行う 公園について

今後展開する事業に必要な事項

以下のいずれかに該当すること

- 現在の訪日外国人来訪者数が多いこと
- 大都市圏等の主要利用拠点からアクセスがしやすいこと
- 公園外も含めた広域連携や官民連携により効率的・効果的な成果が見込まれること



以下のすべてに該当すること

- ①国立公園管理上の課題に適切に対応しており、自然環境を損なうことのないよう十分な配慮がなされていること
- ②主体的に取り組む意志があり、自主的な予算の確保や関係者との連携体制の構築がなされていること
- ③利用者数又は消費額単価等の向上が期待でき、2020年の数値目標及び目標達成に向けた具体的なスケジュールが示されていること
- ④プロジェクトのエリアやテーマが絞り込まれていること（総花的なプロジェクトでないこと）

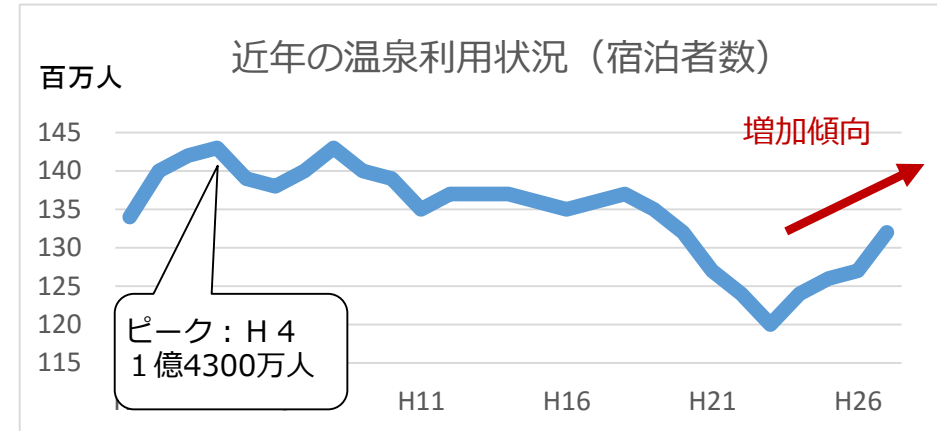


自治体等の提案を踏まえ、環境省が上記必要事項に基づき
「国立公園満喫プロジェクト展開事業」
として位置づけ、自治体等と連携してプロジェクトを実施

① 温泉地のポテンシャル

■ 温泉の利用状況

- 全国には約3千カ所の温泉地が存在
- 平成28年度の利用者約1億3,200万人
- 近年、国内外からの宿泊者が増加傾向
- 観光地としてのポテンシャル大



■ 温泉地の魅力

- 訪日外国人が次回日本でしたいこととして「温泉入浴（第4位）」を上げるなど 温泉の魅力は高い。
- 温泉地には、温泉に加え、上位にある、食、自然・景勝地などの観光資源も存在。

訪日外国人が次回日本でしたいこと

1位	日本食を食べること	58.0%
2位	自然・景勝地観光	45.4%
3位	ショッピング	45.2%
4位	温泉入浴	42.1%
5位	繁華街の街歩き	30.7%

観光庁「訪日外国人消費動向調査」(2016年版)より

国立公園と温泉地の相互連携

②温泉地に関する取組

■全国温泉地サミットの開催

温泉地の首長が集まり、意見交換を行い、連携を強化



サミット会場の様子



要望書の手交



サイドイベントの様子

■民間との協力

「ONSEN・ガストロノミーツーリズム」※への協力等

※ 温泉地を起点に地域の食・自然・歴史をめぐるツーリズム



記者発表会見の様子



ウォーキングの様子



地域の素材を活かした食



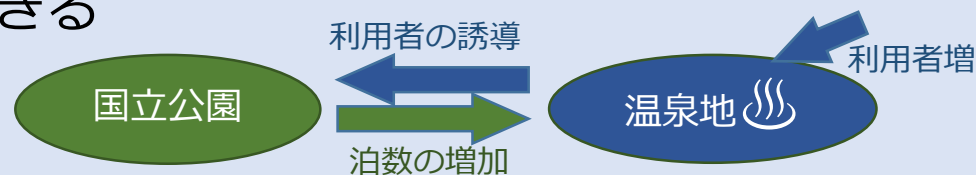
国立公園と温泉地の相互連携

■ 今後の事業展開

- 国立公園への誘客に効果が高い温泉地において、国立公園へ誘導するためのモデル事業（温泉地発着の国立公園モデルコースの作成等）を実施
- 外国人にも関心の高い温泉の効能等、温泉の基礎情報等を多言語にて作成・発信
- 温泉の歴史、湯治文化や温泉旅館等の魅力等の世界に誇れる「ONSEN文化」の積極的な情報発信
- 国立公園関連温泉地と企業やNPO等の多業種による協働の契機の創出

■ 誘客促進

- 国立公園内及び周辺には多くの温泉地あり
- 連携した取組により、温泉地から国立公園へ誘導、国立公園のプログラム充実による温泉地での泊数増加などの相乗効果が期待できる



阿蘇・くじゅう国立公園内外の温泉地

国立公園と温泉地の相互連携

③自然等の地域資源を活かした温泉地の活性化に関する有識者会議の開催

1. 目的

温泉地の活性化を目的として、温泉資源はもとより我が国の自然や景観、まちなみ、歴史文化、食等の地域資源を活かしながら温泉地の総合的な魅力向上を図るために必要な事項等を整理検討し、「自然等の地域資源を活かした今後の温泉地の活性化に関する提言」として取りまとめる。

2. 有識者

阿部宗広	(一財)自然公園財団専務理事
大西倉雄	国民保養温泉地協議会会長(長門市長)
久保田美穂子	亜細亜大学 経営学部 ホスピタリティ・マネジメント 学科 准教授
桑野和泉	(一社)由布院温泉観光協会会長
四宮博	洞爺湖温泉利用協同組合専務理事
下村彰男	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
早坂信哉	(一財)日本健康開発財団 温泉医科学研究所所長
ハリス・マイケル・ジョン	(株)キャニオンズ 代表

(五十音順、敬称略)

3. 開催経過

第1回有識者会議	平成29年5月31日(水)10:00~12:00
第2回有識者会議	6月29日(木)13:30~16:30
第3回有識者会議	7月20日(木)10:00~12:00(とりまとめ)

温泉地活性化に向けて ～「新・湯治」の推進～

温泉 .. 国民共有の資源であり、温泉地の核となり、将来世代へ引き継ぐもの
日本は温泉や温泉地が持つチカラを十分に活用していないのではないか

古くからの
温泉地に長期滞在し、入浴して
病気を治療する「湯治」

団体旅行としての温泉地の発展
療養や保養の場としての衰退

- ストレス社会、高齢化社会であり、ワークライフバランスが求められる現代において、社会全体として、リフレッシュや健康長寿のための場づくり、仕組みづくりが重要
- 官民一体となって地方創生、観光立国（インバウンド対策）を推進

**新・湯治
とは**

温泉地の役割を見直し、「新・湯治」を提案

エビデンスも重視！

- ・ 温泉入浴に加えて、周辺の自然、歴史・文化、食などを活かした多様なプログラムを楽しみ、地域の人や他の訪問者とふれあい、心身ともに元気になること
- ・ 年代、国籍を問わず楽しめる
- ・ 長期滞在を行うことが効果的

新・湯治推進プラン（有識者会議提言）

「新・湯治」を提供する場としての温泉地のあり方、環境省や関係機関に求めること

楽しく、元気になるプログラムの提供

- ・ 泉質、地域資源を活かしたプログラムの提供
- ・ 多様な温泉地間の連携による情報発信 等

温泉地の環境づくり

- ・ 外湯めぐりの充実といった「にぎわいの創出」
- ・ 周辺の自然環境等の地域資源を一体的に評価し、持続的な利用 等

「新・湯治」の効果の把握と普及、全国展開

- ・ 統一フォーマットの提示等により、温泉地全体の療養効果等を科学的に把握し、その結果の情報発信 等

推進体制の構築等

- ・ 地域会社設立や観光組織（DMO等）の活用による体制づくり、財源確保等

国民保養温泉地が中核的・先進的な役割

環境省の取組

新・湯治推進プランの実現のため、

- 「新・湯治」の効果在全国で把握する事業の展開
- 国立公園満喫プロジェクトと連携した取組の検討
- 温泉熱有効活用のためのガイドライン策定 等に取り組む。

※ 29年度内にロードマップを示す予定

国立公園別訪日外国人利用者数推計値等

参考資料1

第4回有識者会議資料

当推計は、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の調査票情報を利用し、算出したもの。

「訪日外国人消費動向調査」は国籍・地域毎に回収目標数の抽出率が異なるため、母集団構成に合わせることを目的として、本年より、四半期別および国籍・地域別ウェイトバック集計を行う方法に見直した。(平成27年分も再計算している。)

公園名		訪日外国人数								関係都道府県
		H27				H28【暫定値】				
	推計実利用者数 *1(千人)	標準誤差率 (%)	アジア系 (%)	欧米系 (%)	推計実利用者数 *1(千人)	標準誤差率 (%)	アジア系 (%)	欧米系 (%)		
1	利尻礼文サロベツ	5	31.6%	-	-	14	21.1%	76.2	23.8	北海道
2	知床	21	15.4%	81.0	19.0	28	14.5%	97.1	2.9	北海道
3	阿寒	63	8.9%	98.4	1.6	58	10.2%	97.7	2.3	北海道
4	釧路湿原	34	12.0%	79.7	20.3	27	15.0%	87.3	12.7	北海道
5	大雪山	64	8.8%	96.9	3.1	83	8.5%	97.9	2.1	北海道
6	支笏洞爺	688	2.6%	92.3	6.0	827	2.7%	94.9	5.1	北海道
7	十和田八幡平	7	26.7%	-	-	22	16.6%	86.4	2.5	青森県、岩手県、秋田県
8	三陸復興	10	22.4%	65.0	35.0	16	19.2%	62.4	37.6	青森県、岩手県、宮城県
9	磐梯朝日	0.5	100.0%	-	-	4	39.4%	81.9	18.1	山形県、福島県、新潟県
10	日光	190	5.1%	56.4	35.0	241	5.0%	59.7	27.7	福島県、栃木県、群馬県
11	尾瀬	-	-	-	-	2	53.2%	100.0	0.0	福島県、栃木県、群馬県、新潟県
12	上信越高原	214	4.8%	81.9	16.2	265	4.7%	84.4	14.9	群馬県、新潟県、長野県
13	秩父多摩甲斐	19	16.2%	60.5	18.4	22	16.5%	83.4	16.6	埼玉県、東京都、山梨県、長野県
14	小笠原	-	-	-	-	0	133.5%	100.0	0.0	東京都
15	富士箱根伊豆	2,341	1.4%	87.5	9.2	2,577	1.4%	84.5	11.4	東京都、神奈川県、山梨県、静岡県
16	中部山岳	338	3.8%	68.3	23.3	351	4.1%	67.2	23.6	新潟県、富山県、長野県、岐阜県
17	妙高戸隠連山	8	24.2%	-	-	6	32.5%	29.9	70.1	新潟県、長野県
18	白山	3	40.8%	-	-	1	66.3%	68.1	31.9	富山県、石川県、福井県、岐阜県
19	南アルプス	-	-	-	-	1	93.6%	100.0	0.0	山梨県、長野県、静岡県
20	伊勢志摩	33	12.2%	79.1	20.9	61	9.9%	84.9	11.1	三重県
21	吉野熊野	53	9.7%	72.9	19.6	59	10.1%	76.2	19.7	三重県、奈良県、和歌山県
22	山陰海岸	32	12.4%	61.5	32.3	50	10.9%	84.0	16.0	京都府、兵庫県、鳥取県
23	瀬戸内海	296	4.1%	67.7	26.1	310	4.0%	61.0	32.3	大阪府、兵庫県、和歌山県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、大分県
24	大山隠岐	6	28.9%	-	-	14	20.8%	85.5	14.5	鳥取県、島根県、岡山県
25	足摺宇和海	0.5	100.0%	-	-	5	35.4%	59.9	40.1	愛媛県、高知県
26	西海	55	9.5%	82.7	17.3	74	9.0%	66.8	24.6	長崎県
27	雲仙天草	28	13.2%	87.7	5.3	29	14.4%	82.1	2.8	長崎県、熊本県、鹿児島県
28	阿蘇くじゅう	682	2.7%	97.5	1.4	675	2.9%	99.0	0.7	熊本県、大分県
29	霧島錦江湾	71	8.3%	90.9	6.3	79	8.7%	97.0	3.0	宮崎県、鹿児島県
30	屋久島	10	22.4%	25.0	55.0	17	19.0%	59.5	26.0	鹿児島県
31	奄美群島			-	-			-	-	鹿児島県
32	やんばる			-	-	-	-	-	-	沖縄県
33	慶良間諸島	-	-	-	-	-	-	-	-	沖縄県
34	西表石垣	12	20.4%	58.3	25.0	14	20.8%	73.2	26.8	沖縄県
合計(選定された8公園)		1,052	-	88.8	8.7	1,150	-	89.4	7.4	
合計(各公園計)		5,284	0.8%	85.0	11.5	5,932	0.9%	84.3	12.1	
合計(実利用者数)		4,902	0.9%	86.7	10.1	5,457	0.9%	85.6	11.3	
訪日外客数全体 *2		19,737	-	16,646	2,985	24,039	-	20,103	2,956	
…選定された8公園										
…参考値 *3										

…選定された8公園

…参考値 *3

*1 推計実利用者数: 当該国立公園を訪れた実際の利用者数の人数。1人の利用者が同一公園内の複数地点を利用しても1人と数える。また、合計(選定された8公園)及び合計(各公園計)は、1人の利用者が2つの公園に訪れると2人と数え、合計(実利用者数)は、1人の利用者が複数の公園を訪れても1人と数える。千人単位で四捨五入している。

*2 訪日外客数全体: 出典: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」 ※平成28年1月-10月の数値は暫定値、11月、12月の数値は推計値。

*3 標準誤差率が30%以上の公園については、サンプル数が少なく信頼性が低いので、参考値とする。取り扱いには十分注意し、転載や二次使用する際には、信頼性の低い参考値であることを明記し、その旨を理解して使用すること。

※「慶良間諸島国立公園」及び「やんばる国立公園」は、「訪日外国人消費動向調査」の訪問地選択肢コードに該当する地点が無かったため、推計対象外。

※平成27年データの「尾瀬国立公園」「小笠原国立公園」「南アルプス国立公園」は、標本数が0(欠損)のため推計不可として扱った。

国立公園満喫プロジェクト有識者会議
委員名簿

＜敬称略・五十音順＞

【学識者】

ロバート キャンベル（国文学研究資料館長）

わくいしろう
涌井史郎（東京都市大学環境学部特別教授） ※座長

【観光関係者】

いししいたる
石井 至（有限会社石井兄弟社社長）

えざき きく
江崎貴久（旅館海月女将、有限会社オズ代表取締役）

デービッド・アトキンソン（小西美術工藝社社長）

ほしのよしはる
星野佳路（星野リゾート代表）

【ジャーナリスト・ライター】

のぞえ
野添ちかこ（温泉と宿のライター）



山と共に
～人と自然がつながる社会へ～

第2回「山の日」記念全国大会 in 那須 2017



8/11 国民の祝日 「山の日」

—— 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する日 ——

スケジュール

8月10日(木)

16:30 - 17:30

レセプション

場所 ホテルエビナル那須

8月11日(金・祝)

9:15 - 10:40

記念式典

場所 那須町文化センター

11:00 - 12:00

シンポジウム

場所 那須町文化センター

11:00 - 19:00

歓迎フェスティバル

場所 余世川ふれあい公園

大会の期間

**平成29年8月10日(木)・
11日(金・祝)の2日間**

※連携イベントは8月11日を中心とする
夏休み期間をメインに春季から秋季にかけて実施

開催地

栃木県那須町

※連携イベントは県内各地で開催

全国大会を盛り上げる様々なイベント等が栃木県内各地で開催されます。
今年は、ぜひ「とちぎの山」にお出かけください。

協賛

ホテルサンバレー那須

足利銀行

下野新聞社

J-Forest 栃木県森林組合連合会

とちぎテレビ

mont-bell

好日山荘

清水建設

ドコモCS栃木支店

山と水と緑の会

**VERY
GOOD
LOCAL**
とちぎ

主催 / 第2回「山の日」記念全国大会実行委員会



本物の出会い 栃木

「本物の出会い 栃木」デザインキャンペーン 2018 4/16/30

触覚

木のぬくもりや湧水の冷たさを
肌で体感

視覚

雄大な自然が織りなす
四季折々の原風景を楽しむ

五感で満喫「とちぎの山」

聴覚

野鳥のさえずり、小川のせせらぎ
木々のさざめきに耳を傾ける

嗅覚

マイナスイオンに満ちた森林の香り、
花の香り、温泉の香りでリラックス

味覚

豊かな自然が育んだ、
食の恵みに舌つづみを打つ

日 時		内 容	
8月11日 (金・祝日)	9:15~10:40	● 記念式典	プログラム メインアトラクション 【小林綾子(女優)、加藤登紀子(歌手)ほか】 場 所 那須町文化センター
	11:00~12:00	● シンポジウム	プログラム パネルディスカッション 【小林綾子(女優)、野口健(登山家)ほか / コーディネーター:萩原浩司(山と溪谷社)】 場 所 那須町文化センター
	11:00~19:00	● 歓迎フェスティバル	プログラム ステージイベント・参加体験イベント・出展ブース 場 所 余笹川ふれあい公園



加藤登紀子



小林綾子



野口健



萩原浩司



第2回「山の日」記念全国大会の大会理念

我が国は、国土の約7割を山地が占める「山の国」です。

山は、命の源となる水を生み、森林や田畑を潤し、海を育てます。そしてまた、新鮮な大気が作られ再び雨となって山にもたらすといった、自然のサイクルの根幹を担っています。古来より、山は畏れと敬意を持って尊ばれる存在であると同時に、人間社会にとって恩恵の源として存在しており、これら山の恩恵は、次代を担う子どもたちに着実に引き継いでいかなければなりません。

そこで、本年8月に本県那須町で開催する第2回「山の日」記念全国大会では、「山の日」の意義である『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する』ことへの理解促進はもとより、山の事故や自然災害への対応、美しく豊かな自然を守り、次の世代に引き継ぐことの大切さについて広く浸透を図ります。



第2回「山の日」記念全国大会 ロゴマークについて



第2回大会の象徴として「とちぎ」らしさを表現しました。

「山」のシルエットには私たちの生活に欠かせない、緑や大地、川(水)がデザインされています。

また、本県を代表する農産物である「いちご」、県獣「カモシカ」と今も那須の地に伝わる「白面金毛九尾の狐」伝説の狐の尻尾をモチーフに採り入れ、「とちぎ」ならではのデザインとなっています。

第2回「山の日」記念全国大会

開催地



第2回「山の日」記念全国大会実行委員会構成

(一財)全国山の日協議会、栃木県、那須町、警察庁、消防庁、文部科学省、スポーツ庁、林野庁、国土交通省、観光庁、環境省、栃木県市長会、栃木県町村会、栃木県「山の日」協議会、栃木県森林組合連合会、(公社)栃木県観光物産協会、(一社)那須町観光協会、(社福)とちぎ健康福祉協会、NPO法人栃木県ウォーキング協会、栃木県農業協同組合中央会、(株)下野新聞社

